

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0171300072), 法人名 (メリーライフ株式会社), 事業所名 (グループホーム里の家大曲 もみじ), 所在地 (北海道北広島市大曲緑ヶ丘1丁目2番地2 TEL 011-377-8373), 自己評価作成日 (令和元年12月10日), 評価結果市町村受理日 (令和2年2月13日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく生涯を送れることを願いとし信じあえる希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。具体的には、ご自宅での生活状況が、入居しても延長したもとなるように配慮しながらご自宅に近い環境となるよう努め、支援させて頂いています。馴染みのある家具や道具に囲まれながらの食事作り、畑仕事や地域の交流などで、生活のリズムを通して、忘れていた自分を取り戻し、穏やかに日常が過ごせるよう支援に努めております。また、職員一人ひとりが、利用者様と生活を共にしていることを常に意識し、ゆつくりと関わりをもち、落ち着いた環境の中でコミュニケーションを図っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JieyosyoCd=0171300072-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和2年1月28日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(Empty box for external evaluation comments)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根差しその一員としての責任を果たすため、管理者も職員もホームの理念を理解し共有している。また、理念に関係する具体的な目標を毎月掲げ、より実現に向けて取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属しており、町内会の行事にも参加している。また地域の方からも当ホームの存在は認知されており、その活動にも理解を得ている。町内会の総会など毎回参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にその構成員として参加していただいている。また地域のボランティアの方も日常的に来ていただき、入居者様と触れ合っていただき認知症への理解に繋がるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃のホームでの活動や日常起こる事故などを説明、その原因や対処法なども説明を行なっている。そこでの質疑応答をサービスへ繋げられるよう議事録を全員で共有し実践に結び付けている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは認定調査時や保護課の方が面会に来るときなど常に連携を図っている。また運営推進会議などにも来ていただき現状を報告し、行政の立場から適切な助言をいただいている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては安全面での課題もありご家族様からも理解を得ている。身体拘束に関しては何が拘束にあたるのか定期的に研修する場を設けており全職員がそのことを理解しケアの幅を拡げ拘束に繋がらないよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法についてはそれを学ぶ機会があり全職員がそれを学ぶ機会があり参加している。何が虐待になるかを、日頃職員同士でも話し合い理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会は多くはないが、該当している入居者様もいることから制度について折に触れて管理者に聞き理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結は管理者が行なっている。入居様者やご家族様の初期段階での不安を可能な限り引き出し、ご理解を頂けるよう十分に説明を行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、ご家族様の要望は都度お聞きしており、その内容を精査し運営に反映するための努力をしている。またその内容について運営推進会議など活用し外部の方へ伝わるよう取り組んでいる。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は会議や朝・夕の送り時にまた日中であつても伝えている。特に管理者も参加しているユニット会議を活用し意見を聞き取りしている。合同会議などで代表者へ報告もされている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者は個々の事情を把握しており、勤務日や勤務時間を考慮している。なお当ユニットには外国人職員もいるため、それに伴った就業制限や文化の違いなども把握し外国人でも適切で働きやすい環境になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質の向上に向け、あらゆる講習会や研修会に参加する機会を職員全員に均等に振り分けられるよう対応している。また、職員間でスキルの差が出ないよう外部研修の資料を全員共有できるよう工夫している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と懇談する機会がある。他事業所を見学する機会もあり、他事業所の良い点また、自身の事業のよい点を見直す機会となっている。また、管理者は他事業所の会議に参加するなどサービス向上に向けた活動をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご本人様に暮らしていくための要望などは入居前の段階でお聞きしている。また言いづらい要望もあることを考慮し関係づくりに努めて引き出している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族様の不安点や要望は率直にお聞きしている。ひとつひとつ説明することで関係づくりの構築を行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様のニーズを見極め、事業所してできることを説明している。協力医療機関があることなどを含め、安心できるよう十分な説明を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事参加など一緒に生活を支え合う関係作りをしている。その中で以前の生活にもできる限り近い生活スタイルが継続できるよう配慮しながら支援に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様へは面会時に近況を報告している。課題点ばかりではなく、ご本人様のちょっとしたしぐさや変化などを報告している。こまめに報告を行うことで信頼関係の構築に繋がられるよう取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様だけでなく友人の訪問や遠い親戚の方が久しぶりに来られた時など快く面会して頂けるよう配慮している。またご希望があればすぐに電話の取り次ぎも迅速に行なうよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方同士は近くの席にして会話できる環境にするなど入居者同士の相性を考慮した対応をしている。トラブルは事前に回避できるよう支援しながら、距離をとりたい入居者様へは職員が間に入るなど孤立しないよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人様が既に退去されても、ご家族様がボランティアとしてホームのお祭りに参加して下さるなど関係は続いている。またその関係が続くよう行事にお誘いしてみるなどアプローチしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どのように暮らしたいか、どこへ行ってみたいか希望や意向は日常の中で都度お聞きしている。困難な方へはご家族様の協力を得てご本人様の情報を引き出し、その思いを実現できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様とご家族様に入居前の生活の様子を伺っている。またフェイスシートで生活歴の概略は把握し暮らしに反映するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活ペースは十分把握している。その上で、その日の体調を見ながら家事参加やレクなどできること、したいことを都度提供できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の希望と面会時などでお聞きしたご家族様との会話の中でより良い生活をするために課題点をさぐっている。それを日々の申し送りやユニット会議で検討しあい、それに基づいた介護計画となるよう取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者のその日の暮らしぶりを記録し、その変化など記録で情報共有できるよう努めている。その変化を基に実践的でより成果がでよう介護計画の見直しをかけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の生活上での変化から生じる課題については、何が必要を見極め職員、ご家族様以外からの情報も加味し、より良い生活ができるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様をとり巻く地域の方々と関わるよう地域行事に積極的に参加している。また、その際は地域の力を借りながら、その人らしく生活できるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の意向を加味した上で主治医へ報告し適切な医療を受けられるよう支援している。また言いづらいことがあった場合もホームが間に入ることで関係性が崩れないよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細な変化も協力医療機関に報告し指示を仰いでいる。また毎週訪問看護でひとり一人の入居者様の情報を知らせ、これから起こりえる体調面の不安などあれば、都度看護師に相談し適切な対応がとれるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院となった場合は、状態の変化を聞いて退院後速やかにホームでも生活が再開できるよう管理者、リーダーを軸に話し合いを行なっている。また相談しやすい雰囲気を作るため、病院と日頃の関係づくりを大切にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に管理者が終末期への取り組みの説明を行ない入居者様とご家族様の意向を反映できるよう支援している。また、入居時だけでなく必要となりうる状況になった場合も必ず話し合いの場は設けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	容態の急変で緊急搬送する場合もあり、それに備えて急変時にしなければならない事柄を理解している。また緊急ファイルが備えつけられており、常時持ち出すことができるよう対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震などを想定した避難訓練は定期的に行なっている。入居者様含め全員がすぐに対応できるよう繰り返し訓練を行なっている。その時は町内会の方にも協力していただいている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	環境上、排泄に関しては特に気をつけて対応している。露骨に気づかれぬよう隠語を使って職員間の情報を共有するなど尊厳の保持に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何処へ行きたいのか、誰に会いたいのか常にお聞きするようにしている。また職員が決めるのではなく、まずは選んでもらうことを第一に考え対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人のペースを大事にしている。静養したいのかTVをゆっくり見たいのか等したいことはできる限りご自身で決定して頂いている。表現できない方は表情やしぐさなど見極めて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気にしない入居者様も多いので無理強いしないよう配慮しながら介入している。外出行事やご家族様と一緒に掛ける時は特に注意を払うよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいのかをお聞きして、可能な限り希望に沿うよう留意している。また調理補助や後片付けなど声をかけ、共同生活の場として共に支え合う関係作りを大事にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量はバラつきがあるので、ご本人様の状態に合わせた対応を行なっている。小食の方には負担のない量で食の良い方には多めにお粥を好む方にはお粥など都度提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声かけを行なっている。自力で行えない方には介助を行なっている。歯の状態を把握し、異常があった時は速やかに協力医療機関の歯科医に報告を行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表で時間を見極めお誘いしている。また訴えない方も表情やちょっとしたしぐさでさりげなく声を掛け誘導している。重度の方が多いがベッド上ではなくトイレでの排泄を基本としている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	不溶性、水溶性食物繊維をバランスよく取り入れられるよう努めている。またホール手すりを利用し立ち上がりや足上げ運動を行なうことで、腸の蠕動運動を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の声かけに拒否する方も多いが、無理強いすることなくご本人様に沿った対応を行なっている。また、トイレの失敗が多い時は1日2度入浴していただくこともあったり次の日に外出される予定の方は前倒して入浴して頂くなど対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後に眠いと言われる方へは30分後に静養を勧めている。また認知症の重度化から時間の感覚な分らない方へは生活リズムが崩れないよう考慮しながら静養していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関してはその効能と副作用は理解している。認知症の重度化から錠剤の薬を飲めない方へは粉碎し提供、またカプセルでは飲めない方へは、他の薬での代用を医療機関に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	パズルを好まれる方へはパズルを、調理参加を好まれる方へは調理を提供している。ゴミ捨てや冬期間でも除雪など気分転換できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自己決定できる方は可能な限り実現するよう支援している。希望を表出できない方へは、ご家族様からお聞きしたり、過去の生活歴を勘案して対応している。また介護支援ボランティア制度も活用し安全面だけでなく地域の方たちとの接点の場としても活用している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自ら支払いが出来る方は少ないが可能な限り支払うための声掛け、タイミングを重視している。特に他者の前で支払いできない場合もあることを考慮し負い目を感じさせないよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望ある場合、電話があった時などはすぐ対応している。現在、手紙のやりとりされる方はいないが必要に応じていつでも対応はしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱されないよう、ドアには「トイレ」「お風呂」など明記し居室とは違うと分かるように工夫をしている。また温湿度計を設置し、温度だけでなく加湿器を設置し冬期間の乾燥に注意している。また対面キッチンなので調理中の音や匂いなど感じられるような空間配慮をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い同士、席の配置に気を配っている。またトラブルにならないよう職員のポジショニングに配慮している。入居者間で自身の居室へ招き、一緒にテレビを見たり談笑する場面もある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限りご自宅で使用されていたものを持ってきて頂くよう声をかけている。中には仏壇を持った方もいる。重度化により介護用ベッドも多くなってきているが、その場合でも近くに家族の写真を置くなど居心地の良い空間作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段やトイレ、また浴室に手摺りが設置されており安全面に配慮している。共有スペースには季節感のあるディスプレイと毎月の催し物など掲示し今日何があるのか分かりやすい工夫をしている。		